

郷土研通信

発行：てしかが郷土研究会（Teshikaga Regional Studies Association）

〒088-3211

北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10（松橋方） 文章責任：松橋 秀和

URL: <https://www.teshi-ka-ga.org/>

クロユリ

アイヌ語 ハンタコル

花弁をつぶして黒色に染める染料に用いたといわれる。

お詫び

6月の「郷土研通信」が発行できませんでしたこと、お詫びいたします。

6月例会の様子等を今月号でお知らせいたします。紙面の関係で「むかしむかし写真館」は8月号に掲載させていただきます

6月例会の 近況報告

○ふるさと歴史館の 補助業務

ふるさと歴史館の活動を盛り上げるため、当会もお手伝いすることについて総会等でお話ししておりますが、正式に決まりました。主な作業は、

- ・ 町に関する様々なことに関する調査研究
- ・ 所蔵資料の調査研究
- ・ 整理・展示に関することなどです。

作業に関することについては随時お知らせいたします。

○三館合同の展示会

ふるさと歴史館、アイヌ民族資料館、大鵬記念館の三館が所蔵する資料を屈斜路プリンスホテルにおいて、6月1日から30日まで展示され、ホテル利用者が観覧されました。展示資料についてふるさと歴史館の学芸員が解説しました。



○「ご当地消印帳」

釧路管内67郵便局の各郵便局が範囲とする地域の歴史や歴史的建造物、名所などなどがデザインされた「風景印」を集める「ご当地消印帳」が発行されました。

7月例会の 近況報告

公民館ふるさと講座

開催

公民館事業の「ふるさと講座」を左記の案で実施することとしました。

第1回

令和8年9月25日（金）

演題「原野の詩人」

更科源藏

講師 松橋 秀和氏

講座の概要

熊牛原野に生まれ、青年時代を弟子屈で過ごした更科源

「風景印」を集めながら添えられた解説文を読みながら地域の歴史や風景を楽しむことができる仕掛けになっています。弟子屈管内は四局（弟子屈・美留和・川湯・屈斜路）が紹介されています。

「ご当地消印帳」は管内郵便局のほか美留和郵便局にて、一冊二千円（税込み）で絶賛販売中です。

蔵は、多くの詩人たちと交流をもち、日本の近代文学に一石を投じている。詩人の感性を育んだ「てしかが」の歴史と風土などを語る。

（裏面につづく）

次回の例会

八月十九日が弟子屈神社の例大祭となり、関係者もいらつしやることから、日程を先の通りとします。

令和八年八月二十六日（水）

一九〇〇

ふるさと歴史館

勉強会

講師

写真家 山本 光一氏

演題

未定

氏は、弟子屈町に在住して活動している自然写真家で、野鳥の生態を主に活写されています。

阿寒摩周国立公園の動植物のことや撮影の苦労話などのお話をお聞きできれば、と思っています。

第2回

令和8年10月30日（金）

演題「てしかがの黎明期」

講師 松橋 秀和氏

講座の概要

弟子屈の中心市街地の歴史を語る建物の一つが解体され、今、時代が移り変わる瞬間を迎えている。時代を振り返って、今を見つめ、未来を創造（想像）するときにきている。

第3回

令和8年11月27日（金）

演題「川湯温泉の元祖

浅野清次」

講師 酒井 盛興氏

講座の概要

弟子屈町公式

チャンネルが好評

最新版の「弟子屈公式チャンネル」の「てしかが歴史探訪」で「中心市街地ホテル解体が始まる」が放映され、直後から視聴数が記録的な数字となっている、とのこと。インターネットで検索してご覧になってください。

明治に始めアトサヌプリ

の硫黄の採掘から和人による弟子屈開拓がはじまった。

その後、川湯の特徴的な温泉と自然環境に身体癒しを求める湯治客が訪れ、川湯温泉が形づくられる。

講演時間

18:30～20:00

会場

弟子屈町公民館

研修室もしくは講堂

対象

町民・30名程度

※本講座を例会日として、勉強会を兼ねます。

6月の

勉強会

北海道立総合研究機構工ネルギー・環境・地質研究所の山口高志さんを特別外部講師にお招きし、講演をしていただきました。「屈斜路湖の魚は、地震で「全滅」したのか？」と題し、1938年に発生した屈斜路地震の

7月の

勉強会

講師を荻野峻宏会員で「ニュージールランド歩き旅」と題してお話してくださいました。

荻野さんは、（一社）道東トレイルクラブの代表をなされていて、令和6年に環境省や道東14市町村の自治体、民間団体、地域住民の協働で、知床、阿寒摩周、釧路湿原の国立公園を結ぶ約410kmの開通した「北海道東トレイル」を維持管理、運営に関するお仕事をされ

ています。

荻野さんは、今年3月にニュージールランドの「トレイル（自然歩道）」を約十日間の日程で143kmを歩いて来られました。荻野さんは、「海外のトレイルを歩いたことがなかったもので、歩く文化が根付いている国で歩く」という事がどのようなものなのか体験したい」との思いから、とのこと。

今回の体験で、トレイル周辺の自然には必要最低限の手を加えていること、トレイルを管理しているレンジャーが専門的な知識と権

限を持っていることなどを知り、「北海道東トレイル」や道東の自然を活かすためには「理想の未来を描きながら根

気強く続ける」ことであると多くのヒントを得た旅であったことでした。

情報提供

講演会

日時：8月27日（木）

18:00～20:00

ところ…

川湯ビクターセンター

講師：南山大学教授

大八木英夫氏

興味深い演題です！

川湯ビクターセンター自然ふれあい行事

摩周湖の中を覗いてみたら

水温・水質調査から見える水面下の世界

講師 大八木英夫

南山大学 総合政策学部 知能応用科学科 教授

湖は自然遺産である摩周湖は、国指定自然公園を代表する自然遺産として知られています。その一方で、気候変動や人間活動に伴い大気や地盤下から湖の生態系に影響を及ぼす危険性として注目されています。湖の生態系は、湖底の地盤・水質・湖岸に密着した生物群系であり、その生態系が崩壊すれば、湖の生態系は壊滅的なダメージを受け、湖の水質も悪化します。本講演では、湖の生態系が崩壊する危険性について、最新の調査結果を基に、湖の生態系を守るための取り組みについてお話します。

8/27 木 [時間] 18:00-20:00

入場無料 申込不要定員50名

会場・問い合わせ先：川湯ビクターセンター
 時間：8:00～17:00 / 本館定休 休：015-483-4100
 Eメール：kikaku@victor-center.jp / 自然ふれあい・環境課 担当

摩周湖と湖岸